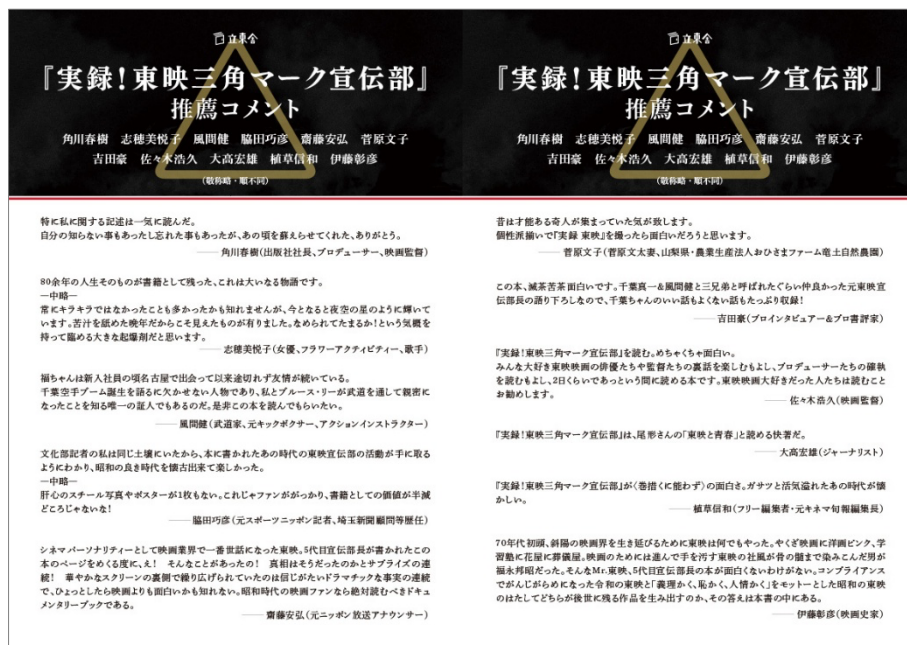


各 位

2026 年 9 月 30 日
株式会社リットーミュージック

角川春樹や志穂美悦子らが書籍『実録！東映三角マーク宣伝部』を絶賛！
映画関係者 11 名によるコメント集が完成！ 各メディアでも書評やインタビュー続々掲載！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）で文芸・カルチャー関連を扱う出版レーベル立東舎は、書籍『実録！東映三角マーク宣伝部』（福永邦昭〈著〉、尾形敏朗〈構成〉）の推薦コメント集を、2026 年 9 月 30 日に発表しました。

コメントを寄せたのは以下の方々です（順不同）。角川春樹、志穂美悦子、風間健、脇田巧彦、斎藤安弘、菅原文子、吉田豪、佐々木浩久、大高宏雄、植草信和、伊藤彰彦。
また同書は各メディアでも大きく取り上げられていて、注目を集めています。

<メディア掲載実績>

- 7 月 13 日 『AERA 2026 年 7 月 20 日号』 書評
- 7 月 18 日 『中日新聞』 夕刊 著者インタビュー
- 7 月 30 日 『映画芸術 2026 年 8 月号』 書評
- 8 月 6 日 『週刊新潮 2026 年 8 月 13・20 日夏季特大号』 書評
- 8 月 20 日 『キネマ旬報 2026 年 9 月号』 書評
- 8 月 21 日 『映画秘宝 2026 年 10 月号』 著者インタビュー
- 9 月 1 日 『出版人・広告人 2026 年 9 月号』 著者インタビュー
- 9 月 5 日 『日本経済新聞』 朝刊 書評
- 9 月 19 日 『朝日新聞』 朝刊 書評

義理かく、恥かく、人情かく!?

実録! 東映三角マー

宣伝部

福永邦昭(元東映宣伝部長)
構成 尾形敏朗

立東舎

ク 「仁義なき戦い」
「トラック野郎」
優作・ひろ子・知世の角川映画……

5代目・東映宣伝部長が語る

波乱万丈の映画人生&大ヒット映画の舞台裏!



大仏開眼会前にて。福永父子



福永の父・吾平氏の葬儀で弔辞を読む大川博社長。後ろに福永母子

も、客が見込めるところ、お金をたくさん積んでくれるところを優先して効率よくスケジュールを組んでいくわけ。1年半くらい前から動いて、いくらか収入が見込まれるとか。受け入れ側の中央大学の県人会にしても興行だから、賭けなんだよね。中央大学のバンドは面白いとなれば来年につながる。それは映画興行も変わらない。そういう実績がないとね。

七光りの困惑

——東映の入社試験、お父様は大川社長の右腕(63年3月には東映不動産の常務)だし、強いコネがあったわけでしょう。

そうですね。実はそれが僕の一つのコンプレックスなんです。コネで入ったことが逆に僕を燃えさせたっていうか、親の七光りじゃないぞ! それを証明しなきゃいけない。

——出勤はお父様と一緒に?

もちろん別々。業界誌(悪)の人からいろいろ聞かれて、最初はとほけてたんだけど、バレた。ウチの親父は口が堅いから、僕のところに来る。まるで広報担当(笑)。親父は66年8月8日にガンで亡くなるんだけど、マキノ光雄さん(製作本部長、東映大躍進の功労者)に続く東映2番目の社長なんです。大川社長が弔辞を読まれた。



配同のモデルが持参した高木彬光の生原稿

で言ったら、高木さんの生原稿が全部あるよと言った、ゴッソリ持って来た。それを東映の会議室で写真に撮った。

旧タイトル『黄金の死角』の生原稿の山でした。私の記憶では、机にいたら福永さんが突然耳元で「本物が来てるよ！」って囁くんです。「え!?」「鶴岡のモデルだよ」廊下をはさんで洋画部の向かいにあるテレビ部の応接で、その方が渡辺亮徳さんと話してました。

あ、亮徳さんの親か。

亮徳さんの銀座での飲み仲間だったそうです。あの方は帝国ホテルを常宿にしてた。東南アジアとかアラビアの石油のコーディネーターみたいなことやってると、それで『週刊プレイボーイ』に本物が現れたと記事を売り込んだ（4月10

事務所社長、平田寛さんが大反対するんですよ。それで広告も、単なる露出じゃなくて、代案として思いついたんじゃないかな。

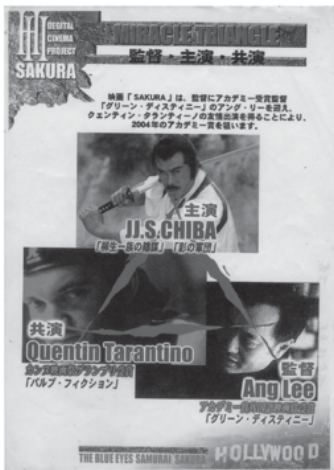
『週刊プレイボーイ』2月27日号に「悪女・綾香役に体当たり演技で大女優へトライ 東映『白昼の死角』に出演中の島田陽子」の見出しでモノクログラビアが3頁。東木勤との濡れ場で乳房を見せている。「撮影 本誌写真部」とあった。福永は事務所社長の反対を押し切って特写させたのか。

「白昼の死角」は稀代の大型詐欺師の話ですから、キャスティングもワルノリ風で面白かったですね。元裁判官の鬼頭史郎と言っても、今は知らない人が多数でしょうけど、検事総長をかたつて当時の三木首相に電話した。『セ』電話事件で国会に証人喚問された時の人に、弁護士役で出てもらいました。誰のアイデアですか？

あれは僕です。名古屋に出演交渉で行ったんじゃないかな。

その撮影現場は、角川春樹さん、佐藤慶さんとの3人のシーンで、マスコミを呼びましたね。それと何より驚いたのは、主人公鶴岡七郎のモデルが現れごと。

あれは誰か聞いたのかな、お会いして、失礼ですが本人と確認できるものがないんですか？



『SAKURA 青い目のサムライ』映画書

株式会社ジャドマック設立

福永さんの人生を狂わせた千葉さんとの映画製作の話は、電話があったのですか。

退職する2日前くらいに、東映ビデオなんか来たことない千葉がアポなしで現れた。「フクちゃんやるんだったら、いい話があるんだけど」で始まって。彼はしAに拠点を移してたから、個員の高層マンションを東京の住まい兼オフィスとして借りていた。それも借金で借りていたと後でわかるんだけどね。そういうことは知らずに、そこを映画製作の事務所にした。もう、やることなすこと全部やらんばらもいってこたね。千葉に翻弄された。

千葉さんのいい話は、どういう話だったんですか？

立派な企画書があつて、タイトルは『SAKURA 青い目のサムライ』。幕末、アメリカのハリス総領事と日本女性との間に生まれた娘と、それを助ける侍の話。原案は彼で、錚々たるスタッフを揃えて、これを見せるとみんな信用しちゃう。今は千葉が知ってる限りのスタッフの名前を勝手に使ったんじゃないかと思ってるけど。彼は「エイセス／大空の誓い」(92年)とか何本かに出演しているから、ハリウッドで認知されていると思うでしょ。それで、ふた言目にはランティノ。ちやうど僕がLAにいるときに「キル・ビル」の完成披露会があつたんですよ。ランティノにも紹介されて「ガンパッパ」って片言の日本語と片言の英語で話した。



■書誌情報

書名：実録！東映三角マーク宣伝部

著者：福永邦昭〈著〉、尾形敏朗〈構成〉

定価：3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

発売：2026 年 6 月 19 日

発行：立東舎／発売：リットーミュージック

商品情報ページ <https://rittorsha.jp/items/2631740801.html>

CONTENTS

- 第 1 章 楽団マンから宣伝マンへ
- 第 2 章 時代劇から不良性感度の東映へ
- 第 3 章 仁義なき戦いに燃える
- 第 4 章 爆走！トラック野郎
- 第 5 章 角川春樹がやって来た！
- 第 6 章 角川映画の宣伝術
- 第 7 章 カドカワ以外も騒がせた
- 第 8 章 宣伝部長への道
- 第 9 章 宣伝部長はつらいよ
- 第 10 章 定年前後の苦い味
- 第 11 章 さらば、千葉真一！

福永 邦昭（ふくなが・くにあき）

1940 年、東京都杉並区生まれ。中央大学経済学部を卒業後、1963 年に東映入社。中部支社の経理課～営業課～宣伝部勤務を経て 66 年、本社宣伝部に移る。以後は宣伝プロデューサーとして長編アニメや任侠・実録アクション、文芸作品など数多くの映画を担当。

尾形 敏朗（おがた・としろう）

1955 年、愛媛県大洲市生まれ。早稲田大学在学中、東映宣伝部で福永邦昭のアシスタントとして働く。卒業後 79 年博報堂入社。主に CM プランナーとして勤務のかたわら日本映画を中心に評論活動。定年退職後はフリー。著書に「小津安二郎 晩秋の味」（河出書房新社）、「完本・巨人と少年 黒澤明の女性たち」（ワイズ出版映画文庫、キネマ旬報読者賞受賞）など。

【立東舎】 <https://rittorsha.jp/>

立東舎は文芸、マンガほか、さまざまな分野のポップカルチャーを紹介する出版活動を展開中。「乙女の本棚」などの好評シリーズのほか、手塚治虫、谷ゆき子らの幻のマンガの復刻などで感度の高い読者の話題を集めている出版ブランドです。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド＆レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー＆クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア＆コンテンツ事業を展開しています。多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』や T シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp